

情報リテラシー支援



高田 淳子

1

情報リテラシー支援(1)

■7月15日(月・祝) 12:30-15:00

<12:30-13:30 リフレッシュタイム10分 13:40-15:00>

1.はじめに ※確認:配布資料

2.講義の目的

3.講義のすすめ方

4.情報リテラシー支援

5.参考文献と参考資料

(〇〇) / ちょっとだけリフレッシュタイム

6.グループワークについて

テーマ「情報リテラシーの育成・向上を支援するサービス
:企画書とポスターの作成」

7.グループワーク:課題作成

2

情報リテラシー支援(2)

■7月15日(月・祝) 15:30-18:00

* 15:00~15:30 休憩⇒講義への「?」等は質問用紙へどうぞ

<15:30-17:00:作成と発表 17:00-18:00:まとめ>

1.グループワーク:課題作成と発表準備

“(?”)-” ちょっとだけリフレッシュタイム *企画書:印刷

2.グループ発表

3.質疑応答、情報交換

4.企画書とポスターの評価

5.まとめ

○情報リテラシー支援:普及と拡大へ...職場研修

3

1.はじめに 自己紹介

高田淳子(たかだ じゅんこ)

どのような情報源として活用できるでしょうか?

・1980年4月~ 神奈川県立高等学校の学校司書

* 1990年代後半、図書館利用教育の必要性を考える
日本図書館協会図書館利用教育委員会へ

1999年4月~ 神奈川県立図書館・県立川崎図書館司書

2017年3月 定年退職

* 一番うれしかったこと、2番目にうれしかったことは?

2017年4月~ 大学非常勤講師

・関心領域:公共図書館の情報リテラシー

4

1.はじめに 自己紹介

○1990年代後半の高校図書館で

行きたくなる、居心地のいい図書館⇒広報・環境整備

使いやすい図書館⇒探しやすい配置、適切な案内の表示

必要な本がある図書館⇒資料の収集・整理

自館にない本や情報源の情報提供⇒レフェラルサービス

図書館の使い方を知ってもらう。⇒図書館オリエンテーション

具体的な質問にあった回答をする。⇒レファレンスサービス



卒業した後の生徒は...

図書館の活用を知らないまま大人になる人も...

図書館の存在を知り、図書館の使い方を知るようになるには?
オリエンテーションだけではなく図書館利用教育が必要かも...
図書館利用教育委員会で「情報リテラシー」という言葉を知る。

5

2.講義の目的

2019年度ステップアップ研修(2)

テーマの内容と科目のねらい

2. 資料・情報との出会いを創出する

情報社会における図書館と図書館員のあり方について考えを深め、社会や地域における情報サービスの提供とその評価法を学ぶ。

* 2005年7月 中堅職員ステップアップ研修(2)

「情報リテラシー育成支援」

常世田良 講師

6

2. 講義の目的

○テーマの内容

情報リテラシー支援の意義と方法、支援の実際における計画や課題について学ぶ。

○科目のねらい

- ・情報リテラシー支援の方法、およびその評価法について学ぶ。
- ・支援対象やその属性を踏まえた計画立案について学ぶ。
- ・情報リテラシー支援実施後の評価の要点について学ぶ。

※具体的な支援対象を仮定したリテラシー支援計画の策定・討議等を通じた学びなどを適宜取り入れる

7

3. 講義のすすめ方

■講義

- ・情報リテラシーとは？
- ・情報リテラシーの育成・向上を支援するサービス

■グループワーク

- ・サービス企画立案・作成

■グループ発表

- ・情報発信

■企画書とポスターの評価

■講評・まとめ

■情報リテラシー支援：普及と拡大へ・・・職場研修

- ・各図書館の図書館員への情報提供と情報共有
- ・地域住民への広報とサービス提供

8

4. 情報リテラシー支援

講義の概要

- (1) 情報リテラシーとは
- (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開
- (3) 公共図書館における情報リテラシー支援の現況
- (4) 公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス
- (5) サービス展開の課題と可能性
- (6) 実践のヒント

9

4. 情報リテラシー支援 (1) 情報リテラシーとは

○よくあるかもしれない・・・「？」から

- ・「情報」はわかるが「リテラシー」とは？
- ・図書館利用教育との違いは？
- ・どこの図書館でもやらなくてはいけないことなのか？
- ・公共図書館全体のサービス状況は？
- ・情報リテラシー教育と情報リテラシー支援とどう違うのか？
- ・参考にできるような図書館はないか？
- ・職場の中で理解を広げるには？

ほかには??? ➡ 質問用紙へどうぞ

10

4. 情報リテラシー支援 (1) 情報リテラシーとは

○情報リテラシーとは

- ・「リテラシー」
文字の読み書きの能力→さまざまな○○リテラシー
参考 [「リテラシー - Wikipedia」](#) [food literacy](#)
- ・図書館における情報リテラシー教育への取り組み
 - ▶1989年：アメリカ図書館協会会長情報リテラシー諮問委員会による「最終報告」 [Final Report](#) が契機
 - 「情報リテラシーとは、情報が必要であるという状況を認識し、情報を効果的に探索し、評価、活用する能力」
 - ▶1993年：日本図書館協会利用教育委員会が発足
 - 2001年：『図書館利用教育ガイドライン合冊版』刊行

11

4. 情報リテラシー支援 (1) 情報リテラシーとは

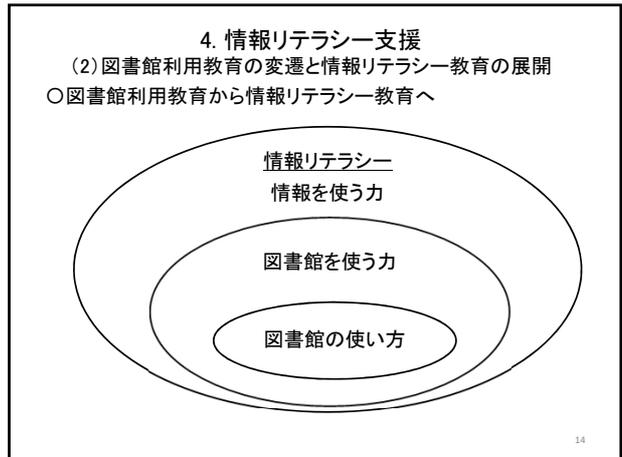
○情報リテラシーの定義と普及について

- ・『図書館情報学用語辞典 第4版』より
「情報リテラシー」(information literacy)
“さまざまな種類の情報源の中から必要な情報にアクセスし、アクセスした情報を正しく評価し、活用する能力。”
 - ・研究と文献
 - ・関連機関や団体
例 文部科学省 日本図書館協会利用教育委員会
- ### ○「教育」と「サービス」
- ・公共図書館で行われることはすべて「サービス」
* 館種による用語の違い

12

4. 情報リテラシー支援
 (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開
 OICT社会と図書館サービスの変遷
 「図書館の使い方」 * 図書館の資料を提供
 (本や雑誌の閲覧・貸出、目録カードで検索)
 ⇒「図書館を使う力」
 (OPAC検索、データベース、図書館HPの活用)
 ⇒「情報を使う力」・・・「情報リテラシー教育」へ
 (図書館が提供する情報源の多様化と拡大:
 インターネット情報、オンラインデータベース)
 【利用者自らが情報を獲得し評価し活用できる力を育成・支援】
 *「生きる力」

13



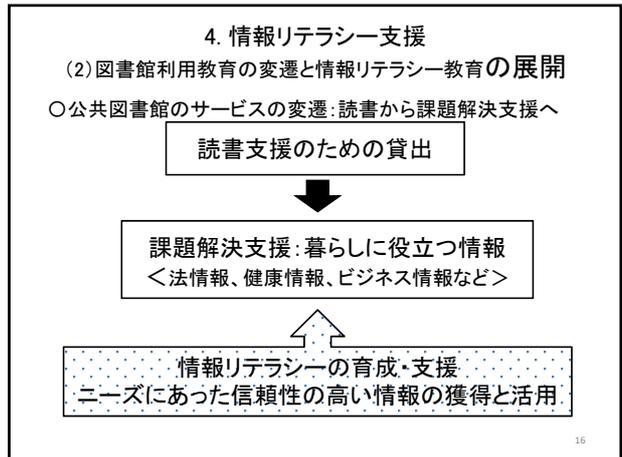
4. 情報リテラシー支援
 (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開
 ○公共図書館のサービスの変遷

- ・場所貸し (-) × ⇔ 滞在型(居心地、安全)
- ・貸出サービス ⇔ 課題解決支援サービス
- ・利用者を待っている図書館
 - ⇒ 情報発信型サービス
 - ⇒ 利用者が「自分で調べる」を支援

↓

ニーズを把握しレイアウト、案内などサービスの改変が常に必要
 * 図書館は常に変化している

15



4. 情報リテラシー支援
 (2) 図書館利用教育の変遷と情報リテラシー教育の展開

○図書館利用教育と情報リテラシー
 『図書館情報学用語辞典 第4版』より
 「図書館利用教育」
 “図書館の利用者および潜在利用者の集団を対象に計画、実施される、組織的な教育的活動。文献利用指導や図書館オリエンテーションなどを含む。図書館サービス、施設、設備、資料などの活用にかかわる知識や技能の修得を主な目的とするが、近年では、情報環境の変化などを背景に教育内容が拡大、多様化し、図書館を含むさまざまな情報(源)の効果的利用に必要な知識や技能(情報リテラシー)の修得を目指す種々の活動を包括する用語と解される。
 利用者教育など同義に使われる用語は多く、教育の代わりに指導、案内、ガイダンスといった言葉も使われる。なお、同じ用語であっても、館種の違いなどによって、その意味するところは必ずしも同一ではない。”

17

4. 情報リテラシー支援
 (3) 公共図書館における情報リテラシー支援の現況

○公共図書館と情報リテラシー支援

- ・ICT社会、生涯学習社会の進展
生涯にわたる情報リテラシーの育成と向上が必要
- ・利用対象が不特定多数で年齢構成が幅広い
 - ⇒ 集団に対して体系的に実施することは困難
 - ⇒ 課題解決支援サービスの基盤としての必要
- ・公共図書館では? ...「自分で調べる」を支援
 - ▶ 利用案内の配布、展示・掲示、図書館ツアー、OPAC・データベースの検索講座、調べ方講座...
 - ▶ Webを活用したサービス
パスファインダー、リンク集、レファレンス事例...
- ・関連調査について

18

4. 情報リテラシー支援

(3) 公共図書館における情報リテラシー支援の現況

○大学図書館

- ・参考例
慶應義塾大学メディアセンター(図書館)
「調べる・探す」タブ「学ぶ・読む」KITIE(レポートの書き方)

○学校図書館

- ・学習支援を目的、集団教育が可能
- ・学校図書館ができることは？
信頼性の高い情報を提供
オリエンテーション等で図書館や情報の使い方を学ぶ
授業の支援:教職員や児童・生徒への資料・情報提供
* 探究学習

19

4. 情報リテラシー支援

(4) 公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス

○情報リテラシー教育<★情報のサイクル>

- ① (図書館の)印象づけ
- ② サービス案内
- ③ 情報探索法
- ④ 情報整理法
- ⑤ 情報表現法 (情報発信)

※参照:『図書館利用教育ガイドライン』

- 情報リテラシーを支援するサービスの枠組みの明確化
➡ 公共図書館におけるサービス展開の具体的な方法

20

4. 情報リテラシー支援

(4) 公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス

○試案

- ・サービスの名称
「情報リテラシー支援サービス」
情報リテラシーは利用者が自らの内に育むものであり、公共図書館はそれを支援する。サービスのあり方をより明確に表す名称
- ・サービスの定義
「情報リテラシーの育成・向上を図るために公共図書館が支援するサービス」:個人と集団
- ・*「子どもや大人が情報活用能力の育成・向上を図るために公共図書館が支援するサービス」:個人利用者

21

4. 情報リテラシー支援

(5) サービス展開の課題と可能性

○現状

- ・公共図書館の役割としての共通認識
* 課題解決支援サービス
➡ 個人の情報リテラシー育成・支援が基盤
- ・利用者が自分の力で必要な情報を獲得
➡ 暮らしの満足度や教育、仕事等の達成度を高める。
- ・社会全体で情報リテラシーを支援する必要
広い視点で公共図書館は何ができるか？
* 各館種の図書館(大学、学校、専門)、学校教育、社会教育関連施設・・・

22

4. 情報リテラシー支援

(5) サービス展開の課題と可能性

○これから

- ・公共図書館における情報リテラシーを支援するサービス
◇用語 「情報活用能力」「情報リテラシー」等
公共図書館としてのサービスの名称
- ◇定義 さらに検討が必要
- ◇内容 さまざまな実践が展開➡事例集
- ・公共図書館の共通認識 ⇔ ガイドライン、マニュアル 等
- ・確立・普及 ⇔ 組織として検討
- ・理論と実践

ほかには？

23

4. 情報リテラシー支援 (6)実践のヒント

○過去の調査結果等から:試行錯誤と工夫

- ・利用案内
- ・掲示 展示
- ・図書館ツアー
- ・パスファインダー・調べ案内
- ・ショートセミナー「OPAC検索講座」「データベース入門」等
- ・講座 例「法令の探し方」、「美術資料の調べ方入門」
「漢詩の調べ方入門」、レポートの作成方法、図書館活用講座、宿題の支援、地域資料の調べ方、健康情報・ビジネス情報の調べ方 ⇔ 暮らしとニーズ
- ・図書館招待やその他の講座との組み合わせ
- ・出張(出前)講座 学校等

24

4. 情報リテラシー支援 (6)実践のヒント

- 広報の方法から *「言葉の力」
- ・図書館
 - 「図書館の達人」「〇〇名人」「〇〇王」
 - 「図書館・書庫探検ツアー」「図書館のお宝大公開」
 - 「ビジネス講座 :15分でわかる!データベース入門」
 - 「なかみが見える!調べ方がわかる本の福袋」
 - 「夏休みの宿題応援隊」「就活支援講座」
 - 「レポートの作成 入門講座」
- ・本や雑誌のタイトル、電車の吊り広告、新聞の広告等
 - 「自分磨きの図書館術」「よくわかる・・・」「すぐ役に立つ・・・」「おもしろくてためになる・・・」「〇分でわかる・・・」

25

4. 情報リテラシー支援 (6)実践のヒント

- サービス展開の方法から
- ・サービスの対象を絞る
 - ▶年代:子ども ヤングアダルト 大人 シニア 等
 - ▶内容によって利用対象をわけると → 効果・効率
- ・サービスの方法
 - ▶レファレンスサービス、フロアワーク等の日常で
 - ▶広報 内容:利用案内、調べ案内
方法:掲示、展示、配布物、インターネット
 - ▶ショートセミナー、講座
 - ▶学校との連携
 - ▶他の機関との連携(タイアップ講座等)

26

4. 情報リテラシー支援 (6)実践のヒント

- システムからの視点から検索を支援する
- ・OPACの変遷:館内OPACからWebへ
- ・発想の転換の可能性
- OPAC講座⇒もっと使いやすいOPACへ
- 例 **大田区立図書館** かんたん検索「あいうえか」
 - ⇒もしかして:あいうえお あいうえうた
あいうえおおかみ あいうえおかの夫
- 三島市立図書館** かんたん検索「あいうえか」
 - ⇒もしかして:あいうえお あいうえうた
あいうえおおかみ あいうえおかの夫

27

4. 情報リテラシー支援 (6)実践のヒント

- 事前課題
- 「公共図書館における情報リテラシー教育の現況についての調査」
- ・目的
 - ▶現況把握
 - ▶参考事例
 - ▶実際にどのようなサービスの可能性があるかを知る。
 - ⇒情報共有、サービスの可能性の検討
 - ▶調査結果
 - ※参照:「事前課題【2】:まとめ」

28